

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090700354		
法人名	(株)プロデュース		
事業所名	グループホームきらめき 上の原		
所在地	福岡県北九州市八幡西区上の原2丁目17-11		
自己評価作成日	平成26年3月1日	評価結果確定日	平成26年3月27日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートうりずん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	平成26年3月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「明るい挨拶 元気な会社」と経営理念を掲げ、私たちは高齢者介護を通じて尊厳を守り、思いやりと感謝を持ち続け生きがいある生活のお手伝いをします。笑顔になる人間関係を築き、人とひと・ところと心をつなぎ地域に貢献します。スタッフ間で「ありがとう」メッセージを送り合い、チームワークの良い愛あふれたホームです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開所1年目のグループホームきらめき上の原は、入居者から「(唱和の)時間ですよ」と声かけがあったり、きらめきサロン活用や赤ちゃん先生とのふれあいで、笑顔になる関係を築く理念を実践している。運営推進会議の参加者の意見で、ヒヤリハット報告は改善策や実施後の成果を報告するまでになり、サービスの可視化に努めている。また、発足した家族会の意見を受け、カラオケの設置状況を説明したり、ロールプレイを取り入れた職員研修を実施している。そして、系列事業者からの異動した職員や新規入職者が一丸となったチームケアで、声かけや、自室・洗面台にトイレに誘導する張り紙で、トイレでの排泄を支援したり、筆筒や衣類入れで居室入口を塞ぐ入居者の不安や心情に配慮しながら、安心できる生活を支援している。今後も、併設小規模事業所とともに、地域の拠り所となるサービスの展開が期待できる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット／事業所名 **グループホーム きらめき 太陽**

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	経営理念「明るい挨拶 元気な会社」私たちは高齢者介護を通じて尊厳を守り、思いやりと感謝を持ち続け生きがいある生活のお手伝いをします。笑顔になる人間関係を築き、人とひと・こころと心をつなぎ地域に貢献します。	入居者から「(唱和の)時間ですよ」と声がかかるなど、全員による理念の唱和が人とひとをつなぎつつある。理念を実践するために、各ユニット毎に作成したスローガンの見直しを検討している。	
		利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	肉屋、八百屋、魚屋へ注文をし、ほぼ毎日配達をして頂き、入居者様と食事作りをしている。地域の夏祭り、運動会、敬老会などに参加させて貰っている。	きらめきサロンで音楽療法を家族と楽しむなど、サロン活用者との交流に努めている。赤ちゃん先生とのふれあいで、孫と暮らしていた時の顔になる入居者もあり、関わる機会を積極的に設けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月「きらめきだより」を発行 ご家族様へ送付。地域の方々にも見て頂き、情報発信しながら支援、理解してもらえる工夫を心がけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	第1回目が昨年の5月、7月、9月、11月、今年の1月、(次回は3月予定)開催 9月に家族会が発足。家族の方、地域の方の意見や要望を聴き、改善出来るよう取り組んでいる。11月に高田芳信講師を迎え認知症の講座を開催した。	小規模多機能事業所と合同で、定期的に関催されている。参加者の意見で、ヒヤリハットは改善策や実施後の成果を報告し、サービスの可視化に努めている。会議後に認知症サポーター養成講座を開催し、参加者に理解や協力をお願いしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括支援センターの方よりヒヤリハットや事故報告等日々のケアに対する助言指導をしていただいた。	運営推進会議でのヒヤリハット報告から、包括支援センターの指導を受け、報告すべき内容の分類や範囲についての理解が促進している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は、夕方19時まで開放している。運営会議などで拘束について話し合い、周知している。ちょっとした声掛けが行動や意欲を制限していることもあるので、利用者様の思いを知り寄り添う介護を、目指している。必要な時は、家族と話し合いを持つこととしている。	「ダメ」や「○○してください」の声かけをした後で、不適切だと気づき、改善に努めている。自宅に帰りたいと駐車場の車のナンバーを見に出かける入居者もあり、本人とナンバーを確認して納得していただくように支援している。入居者と家族とのやり取りは、職員が入居者の心情や気持ちに寄り添うことの難しさを理解する機会にもなっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者様との会話の中でお互い注意し合い言葉による虐待(近い言葉)が無い様指導している。入浴時に、皮膚の観察を行い皮下出血などある時は、記録に残している。		

福岡県 グループホーム きらめき上の原

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人をたてている方が入居されている。必要に応じて入居の際説明をしている。	いつでも情報を提供できるように、日常生活自立支援事業や成年後見制度に関するパンフレットを整備している。後見人の弁護士に、毎月報告書を送付しているが、来所された時は入居者の近況を報告している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際必ず説明を行い、理解、納得してから契約を行っている。 センター方式を利用し過去の生活状況を充分聞き取り、意見要望を聞いている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	9月に家族会が発足され、運営推進会議の後で話し合いを持って頂く。意見をまとめて報告して頂き、改善出来る所は改善していくように努めて行く。	発足した家族会は率直な意見が表出できる場所となっている。家族から、片方のユニットだけにしかカラオケの設置がないのはなぜかや、入居者の声かけが不適切だと意見を受け、設置状況を説明したり、ロールプレイを取り入れた職員研修を実施している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に社長との面談があり一人一人の相談や悩みを聞いてくれる。 提案や改善の必要性の有る所から改善している。	管理者や運営者との個別面談を実施し、就労に関する意見や要望を話し合う機会を設けている。ユニットや全体のミーティングは話しやすい環境で、業務をどの勤務帯で行うかなどを話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、日々職員に対し声掛けしモチベーションがアップできる様心がけている。 今後口頭で伝えられない事をアンケートで吸い上げていく。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	19歳～71歳年齢差も幅広く男女問わず職員がおり、個々の能力を発揮し、お互いが理解してチームワークを大切に取り組んでいる職員同士の良いところに着目し、個人の強みを伸ばしながら勤務できるよう協力し合っている。	10代～70代と職員の年齢幅も広く、個々の経験を活かして、助け合いながらケアに取り組んでいる。求人広告に掲載された運営者の写真を見て入職した職員や、系列事業者からの異動した職員もあり、新旧職員で新しいホームづくりをしている。資格取得やリーダー研修等能力や希望に応じた支援がされ、社内研修では子供同伴でも参加できる配慮がある。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	TA研修 交流分析	ロールプレイを取り入れた認知症の内部学習会を通じて、入居者や職員の人権を考える機会を設けている。言葉かけや対応を客観的に考えることで、気づきを深めている。	

福岡県 グループホーム きらめき上の原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修(センター方式・理念と経営の勉強会等)や職員の能力に合わせ社外研修で学んできた事を報告し共有している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	徘徊ネットワーク会員、グループホーム経営者や管理者と情報交換している。グループホーム協議会に入会し、事例発表会や研修に参加し他社との情報交換を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人、家族の困っている事、不安や要望を聴き安心して頂ける様に、努めている。センター方式の活用が信頼関係に結びついている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に本人、家族の困っている事、不安や要望を聴き安心して頂ける様に努めている。センター方式活用初期段階では、本人、ご家族とのコミュニケーションを多く持ち安心して頂けるように心がけている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に、本人、家族の困っている事、不安や要望を聴き安心して頂ける様に、努めている。センター方式活用から、生まれ育って生きてきた背景をもとにケアするようにしている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で入居者様からも沢山の事を学びお互いに支え合っている関係。本人の出来る事を日々気付き協力して頂いている。感謝の言葉を伝え出来た事は喜びを共に感じ自信を持てるように支援している。喜び、悲しみ、怒りを共に分かち合いながら、信頼関係を築いていけるよう努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	近況報告、相談を行い、よりよいケアが出来るよう信頼関係を築いている。毎月家族通信を送っている。ご家族様が来られた時は、ご家族様だけで過ごして頂ける様にしている。		

福岡県 グループホーム きらめき上の原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居後今まで住んでいた自宅に行き洋服や家電などを持ってくことや馴染の場所と同行をしている。	自宅の仏壇にお線香を上げに帰宅する入居者に同行したり、家族とリハビリや詩吟に出かける入居者もある。また、週末に泊る家族を受け入れ、大切な家族との関係継続を支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒にソファに座られ、そっと手を握りスキップをとっている光景をみかける。廊下を肩を並べて歩いている光景あり。お互いの居室を行き来し仲良く話されたりしている。		
24		○関係を断ち切らない仕組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	一年間で1名。 退去後施設入所され面会に行った。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様本位の暮らし方が出来るよう希望、意向は必ずお聴きしている。意思の疎通が出来ない方にはご家族様に情報を頂き、望まれるであろう生活に近づけている。	センター方式等のアセスメントシートを整備し、思いや意向を把握している。ユニットミーティングや申し送り、職員の気づきを共有し、さらなる思いや意向の把握に取り組んでいる。	担当職員や介護計画作成担当者が中心となり、「私の○○」を把握するツールであるセンター方式アセスメントシートの活用を期待します。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際、ご家族に生活歴を記入して頂き情報を収集している。センター方式活用入居後もご家族、ご本人様からお聴きする情報もあるので、スタッフで共有している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々のその日の心身の状況を観察し把握し自由で快適に過ごせるよう努めている。毎月のカンファで現状の把握を行い、今後の支援を検討している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	特に変わりのない方は3ヶ月に1度カンファレンスを行い計画に反映している。ユニットごとの事前ミーティングと全体ミーティングで介護職員がカンファレンスの際細かく意見を出す仕組み作りをしている。ユニット内MT→全体ミーティング→ケアプラン作成とチームで計画を作っている。	担当職員が作成した介護計画原案やモニタリング結果、入居者や家族の意向を話し合い、計画の作成や見直しをする。声かけや、自室・洗面台にトイレに誘導する張り紙でトイレでの排泄を支援し、自室での放尿が軽減した入居者もいる。また、自室の筆筒や衣類入れで居室入口を塞ぐ入居者もあり、入居者の不安や心情に配慮しながら、安心して生活を支援している。	興味のあることやできることを具体的に支援することで、入居者が笑顔になれる介護計画の作成を期待します。

福岡県 グループホーム きらめき上の原

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご家族様へ変化は書面や電話で報告し、相談の後計画に反映させケアを行っている。ご家族に、いつでも記録を見て頂くよう声掛けし又掲示している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のご家族の状況やご本人の状況に合わせてサービスを行っている。外出を好まれる利用者様には、できるだけ外出の機会を作るよう努力している。ご本人の希望に添える支援を行っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域が住宅地のため、散歩の途中に近所の方から声をかけて頂いている。地域の老人会の催し物に参加させて頂いている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望により各週往診に来ていただき健康チェックできている。必要に応じて緊急往診や緊急対応の指示、協力を受けている。	訪問診療を受けている入居者が多い。家族の同行で医療機関を受診する入居者もあるが、緊急時は看護職員が対応し、適切な医療を受けられるように支援している。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に5日看護師が来て健康チェックし把握出来ている。変化の有る方は申し送りを徹底し支援している。その他、下の小規模多機能の職員の中に2名の看護師が居る為、心強い。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時ホームでも生活情報を提供し、病状が安定したら早期退院をお願いしている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族、医師と密に情報交換し、状態変化が有る時は、その都度意向を確認し、満足して頂ける終末期を迎えられる様支援している。	整備した方針に沿って、重度化しつつある入居者の家族と話し合い、意向確認書を取り交わしている。夜勤帯で対応が求められる場合は、バイタル等を看護職員に連絡したり、近隣在住の管理者がホームに駆けつけるなど、今後に向けて支援体制を確認している。	

福岡県 グループホーム きらめき上の原

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	起こりうる事故や急変時は再度職員に伝え対応の手順を再確認している。AEDを設置後消防士を呼んで救命救急の講義を受けた。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間帯の火災を想定し避難訓練を行い、消火器の使用方法和利用者様の非難誘導も行っている。地震・水害に対しては、備蓄できるものは、準備している。	前回の夜間を想定した避難訓練では、入居者の誘導が課題となったため、ユニット会議でシュミレーションを計画したり、歩行が可能な入居者は非常階段の活用を検討している。飲料水やお茶のボトルを備蓄している。	備蓄台帳を整備し、飲料水だけではなく保存食、衛生用品など、災害時に備える物品について、話し合いをお願いします。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に合わせた声かけをしている。赤ちゃん言葉や上からの命令形な言葉は絶対に使わないように指導している。	個人の日課や個々のくつろぎの時間を大切にしたり声かけや対応をしている。食後、詩吟を朗々と吟じる入居者に拍手したり、時には詩吟をなぞる入居者もあるなど、入居者間の思いやりも伺える。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者の行動などでシグナルを見落とさないよう努めている。おやつ時の飲み物や行事の参加や外出も自己決定できるよう声掛けしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室にて読書を好まれる方、廊下ソファでおしゃべりしたい方など個々その時の状態に合わせて一人ひとりのスペースを大事にして、その人らしい暮らしを大切に支援するように努めている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望に合わせて行っている。外出時などは一緒に着る物を選び決めている。理美容室に行きパーマやカラーをされる支援を行っている。2、3ヶ月に1回訪問美容師に来て頂きカットをされる支援をしている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	会話の中で食べたい物等有る時は、献立に反映している。個々のその時の状況に合わせて、出来ることを共に行っている。食器洗い、お盆拭き等を一緒に楽しく行っている。	入居者の相性や状況によって、食事の席を決めている。職員による声かけや見守り、介助で、それぞれのペースで完食する入居者が多い。つぎ分けや配膳、下膳をされる入居者もある。下膳動作がおぼつかない入居者もあるが、「手を出さない方が良いよ」と同席の入居者に声をかけられ、調査員が納得する場面もあった。	

福岡県 グループホーム きらめき上の原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、食事量や水分摂取量をチェックし状態を把握し対応している。個々に合わせて食事量をきめて、バランス良く摂取される様に支援を行っている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。 困難なご利用者はスタッフが介助にて行なっている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表にてパターンを把握し、トイレで排泄が出来るよう援助している。歩行困難なご利用者には、声掛け誘導にて介助を行っている。	3ヶ所にあるトイレは、目線に合わせてわかりやすく表示されている。日中は、布パンツやパットの使用で、トイレでの排泄を支援している。退院後、夜間自室で放尿する入居者には、張り紙でトイレの場所を確認してもらったり、トイレ誘導の声かけで、放尿の回数が減っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量や運動と毎朝のパナナ入りヨーグルト等工夫し、自然排便が出来るよう援助している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	1対1の援助でゆっくり入浴して頂いている。臨機応変で希望の有る時は対応している。	ユニット毎に3方から支援できる個浴槽が設置され、週2回の入浴を支援している。入浴に拒否的な言動のある入居者も、浴槽に浸かると「気持ち良い」と言っている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	前日の睡眠時間や状態を把握し対応している。病状や年齢、習慣によって日中でもゆっくり休んで頂いている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一覧表や薬手帳で確認できるようにしている。新しく処方があるときは必ず申し送っている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご家族の協力もあるが、ご本人の嗜好も考慮し支援している。		

福岡県 グループホーム きらめき上の原

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホーム周辺を散歩にお連れしたり又近くのスーパーに職員と一緒に買い物に行き、住民の方とのコミュニケーションも心掛けている。	家族とリハビリや詩吟に出かけたり、自費で外出ヘルパーと、自宅へ帰ったりデパートに買い物に行く入居者もある。ホーム周囲は住宅地で、日ごろは散歩に出かけている。年間外出計画を立て、花見や水族館に出かけたり、ドライブしたりしている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人とご家族の希望で、お金をもっている方もいる。買い物の時にお渡しする事もある。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人とご家族の希望があれば、いつでも電話できる体制はある。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、リビング等に季節を感じられるように花や飾りを工夫し取り入れている。窓から庭園、畑が望める。	玄関入口の日当たりのよいテラスには季節の花々が咲き、2階に上がるエレベーター前にはお雛様が飾られている。共有空間入口の厨房から、美味しそうな匂いが漂い、各入居者は定位置で食事を摂っている。食後は、それぞれにゆっくりと寛いでいる。床や壁は温かな木目で、窓からの採光で明るい環境を作っている。空調も管理され、加湿器も設置されている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを設置し、自由に過ごせる空間がある。気の合った入居者様同士、一緒に座られ話をされる事もある。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの箆笥や壁掛け、写真等を持って来られ、ご本人が心地よく過ごせるよう努めている。	居室入口は短めの暖簾がかけられ、氏名も掲示されている。家族の面会や泊りもあり、個人に合った佇まいになっている。使い慣れた箆笥や寝具があり、壁には若い頃のモノクロの写真や好みの飾り物がかけてあり、本人の生活の場所となっている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々に合わせその時の状況を把握し過剰な介護はせず支援している。リスクはあるが、出来る事の発見やそっと見守る事で出来るように支援する事を支援している。下膳や食器洗い、掃除機かけ等		